

頑張ろう大町町



町では、10月18日に災害対策本部会議から復旧復興連絡会議に移行し、被災者の皆さんの支援を行っています。

ここでは、復旧・復興に向けて頑張っている人を紹介し、被災地区の「^{いま}現在」をお伝えします。



～つながる人の輪～

復興レポート

Disaster Revival

Vol.3

(取材：向山)

はいつか ひろみ みよこ
灰塚 廣美さん、美代子さんご夫婦

自宅の1階の改修がまだ済んでいないこともあり、小さい冷蔵庫を1つレンタルしています。あまり食材が入らないので、カップ麺やスープでその日



A. アパートを借りているので、夜は衣食と寝泊りでアパートに、昼は改修工事の確認で自宅に行ったり来たりしながら生活しています。

Q. 現在はどのような生活をされていますか。

A. 本格的に雨が降り出した8月14日の夜中からずっと起きていました。車は事前に町公民館に避難させておいて、ペットの犬や家のなかにある手荷物や動かせる家電は垂直避難させ、在宅避難を選択しました。2年前よりはるかに水位が高く、床上72cmまで水がきました。最終的に通りかかった消防団の救命ボートに乗って町公民館まで避難しました。

復興・復興に向けて頑張っている人に話を聞きました。

食べる分の惣菜を買って細々と暮らしています。

Q. 再建の目的を教えてください。

A. 同じ地区や隣の武雄市でも家の改修がほとんどはじまっている関係もあり、なかなか大工さんがつかまらず、着工が遅れている状態です。資材は届いているのですが、修理が終わるのが2月～3月頃になるので、一番寒い時期を乗り越えないといけません。また雨が降ったら…と不安もあります。愛着あるこの町で暮らしていきたい。来年以降なんにもないことを祈りたいですね。



▲灰塚さんのご自宅(1階)の様子。まだ改修工事が済んでいない状態でこれから本格的な冬を迎える。

取材を終えて

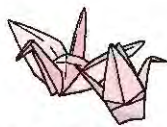
12月中旬にご自宅に伺い取材しました。改修のため壁や断熱材が撤去されている状態だったので、部屋の中は外気と変わらないくらい冷えていて、冬を迎えるこれからは生活再建の正念場になってくるように感じました。

被災地区の現在・下潟

下潟地区は町の南西に位置し、田畑に囲まれた農業が盛んな地区です。「令和元年8月の前線に伴う大雨」と「令和3年8月11日からの大雨」の両年で、全世帯(70世帯)が被災した地区でもあります。

発災後、下潟公民分館は技術系NPOや炊き出しの支援団体の活動拠点となり、物資の配布や炊き出しの会場としてもにぎわう被災地の拠り所となっていました。

11月から改修工事が行われ、NPO等支援団体は大町診療所跡に活動拠点を移し、下潟地区への継続した支援を行っています。



▼下潟公民分館での最後の炊き出しにあわせて、地区の皆さんが感謝会を行った。



▲被害当時の下潟地区